

January 26, 2021

【前日の為替概況】ユーロ、欧州での行動規制長期化懸念で下落、1.2116ドル、125.81円

25日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3営業日ぶりに反落。終値は1.2139ドルと前営業日NY終値(1.2171ドル)と比べて0.0032ドル程度のユーロ安水準だった。欧州時間発表の1月独Ifo企業景況感指数が予想を下回ったことを受けてユーロ売り・ドル買いが先行。米製薬大手メルクが2種類の新型コロナウイルスワクチンの開発を打ち切ると発表すると、ワクチン普及の不透明感が広がり欧米株価が軟調に推移した。リスク・オフのドル買いが優勢となり、一時1.2116ドルと日通し安値を付けた。

ただ、一時は430ドル超下落したダウ平均が下げ幅を縮めると、投資家のリスク回避姿勢が和らいだため、ドル買い圧力が後退。3時前には1.2148ドル付近まで下げ渋った。

なお、「イタリアのコンテ首相は26日朝に辞任する見通し」との報道が伝わったものの、相場の反応は限定的だった。伊連立与党は内紛で一部の政党が離脱し、議会上院で議席が過半数割れとなっているため、いったん辞任し、再び新政権の樹立を目指すとみられている。

ユーロ円も3日ぶりに反落。終値は125.95円と前営業日NY終値(126.33円)と比べて38銭程度のユーロ安水準。新型コロナウイルスワクチンの供給に遅れが生じ、行動制限が長期化すると警戒感が高まる中、投資家がリスク回避姿勢を強め円買い・ユーロ売りが広がった。1時過ぎに一時125.81円と日通し安値を付けた。ただ、ユーロドルが下げ渋るとユーロ円にも買い戻しが入り126.06円付近まで値を戻す場面があった。

ドル円は小反落。終値は103.75円と前営業日NY終値(103.78円)と比べて3銭程度のドル安水準だった。欧米株安に伴うリスク・オフのドル買いが先行すると、一時103.94円と日通し高値を付けたものの、104.00円に観測されている本邦実需勢の売りに上値を抑えられると失速した。クロス円の下落につれた円買いも入り、103.75円付近まで下押しした。米国株の下げ渋りもドル買い圧力を後退させた。もっとも、NY市場に限ればドル円の値幅は24銭程度だった。

【本日の東京為替見通し】FOMC控えて、104円台のドル売りオーダーで伸び悩む展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、本日からの米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えて、104円台のドル売りオーダーが上値を抑える展開が予想される。

年初来の16営業日でのドル円相場は、104円台で取引されたのは6営業日だけで、本邦輸出企業からの執拗なドル売りオーダーが上値を抑える展開となっている。

本日のドル円のオーダー状況は、上値には、104.00-10円に断続的にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、104.20-60円にも断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、103.65円に加ドル円、割り込むとストップロス売り、103.50-60円に断続的にドル買いオーダー、103.20-30円にも断続的にドル買いオーダーが控えている。

一目均衡表のテクニカル分析でも、昨年後半から長期トレンドを示唆する200日移動平均線の下落基調に伴い、抵抗帯である雲に覆われた日々が続いており、本日も雲の上限104.37円が上値を抑える構図となっている。

ドル円が1月11日に104.40円まで上昇した要因として、バイデン政権による包括的経済対策案への期待感や米連邦準備理事会(FRB)高官のテーパリング(資産購入の段階的縮小)発言を受けた米10年債利回りの1.185%までの上昇が挙げられる。本日から米連邦公開市場委員会(FOMC)でのタカ派的なリスクシナリオは、年内のテーパリング(資産購入の段階的縮小)議論が挙げられる。また、ハト派的なリスクシナリオとしては、12月の非農業部門雇用者数が前月比でマイナスに落ち込んだことや、バイデン米大統領の追加経済対策案第1弾(約1.9兆ドル)による米10年債利回りの上昇を抑えるために資産購入額(1200億ドル)の増額となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 12月企業向けサービス価格指数（予想：前年比▲0.6%）
- 08:50 ☆ 12月17-18日分の日銀金融政策決定会合議事要旨

<海外>

- 16:00 ◎ 12月英雇用統計（失業率／失業保険申請件数推移）
- 16:00 ◎ 9-11月英失業率（ILO方式、予想：5.1%）
- 23:00 ◇ 11月米住宅価格指数（予想：前月比0.8%）
- 23:00 ◎ 11月米ケース・シラー住宅価格指数数（予想：前年比8.1%）
- 24:00 ◎ 1月米消費者信頼感指数数（予想：89.0）
- 24:00 ◎ 1月米リッチモンド連銀製造業景気指数（予想：17）
- 27日 01:00 ◎ センテノ・ポルトガル中銀総裁、講演
- 27日 03:00 ◎ 米財務省、5年債入札
- 国際通貨基金（IMF）、世界経済見通し公表
- 米連邦公開市場委員会（FOMC）1日目
- 豪州（建国記念日）、インド（共和国記念日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

25日 16:01 ブラウン元英首相

「スコットランドの不満は非常に根深く、英国の終焉の恐れがある」

25日 16:45 コフィー英労働・年金相

「財務省とコロナ支援について積極的に話し合っている」

25日 17:26 黒田日銀総裁

「日本経済はコロナに大きな影響を受けている」
「緊急事態宣言の再発令で景気回復が弱まる可能性もある」

25日 20:35 独保健省

「欧州連合(EU)が金曜日にもアストラゼネカのコロナワクチンを承認すると見込む」

25日 21:21 習・中国国家主席

「世界は貿易や投資、技術交換の障害となるものを取り除くべき」
「世界経済は不安定であり見通しは不確実なまま」
「国際社会が発展途上国に必要な支援を提供し、合法的な利益を保護する必要」

25日 23:23 米製薬大手モデルナ

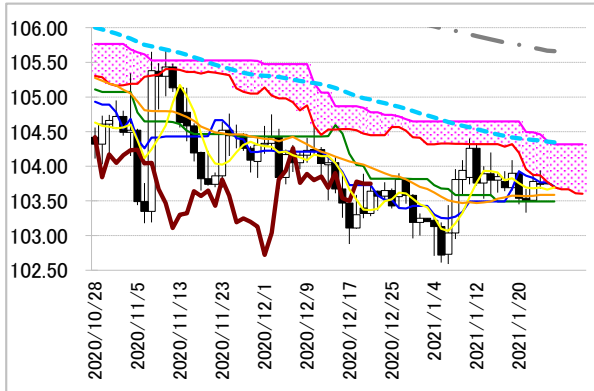
「新型コロナウイルスワクチン、英・南アの変異種にも有効」

26日 01:24 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁

「2021年が回復の年になることを願う」
「回復はやや遅れたが失敗はしていない」
「ユーロ圏第4四半期の成長はマイナス」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

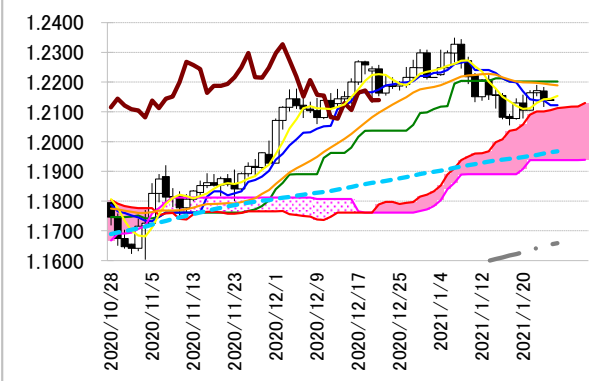


<ドル円＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

寄り同事線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けているものの、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかしながら、雲の手前で寄り同事線が示現しており、反落の可能性が示唆されていることで要警戒か。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	104.37(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	103.75
サポート1	103.50(日足一目均衡表・基準線)
サポート2	102.59(1/6 安値)

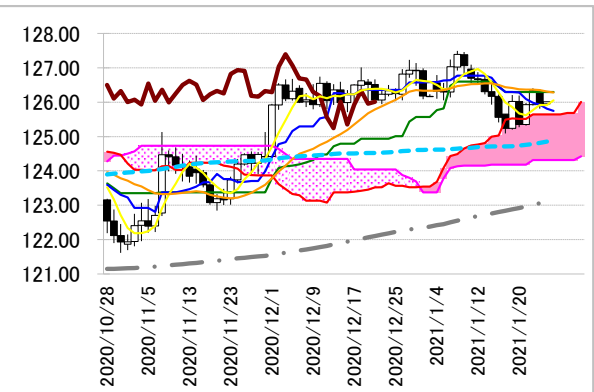


<ユーロドル＝雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。2手連続陽線で転換線を上回り、孕み線で反落したものの、転換線を上回って引けていることで反発の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.2202(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.2139
サポート1	1.2106(日足一目均衡表・雲の上限)

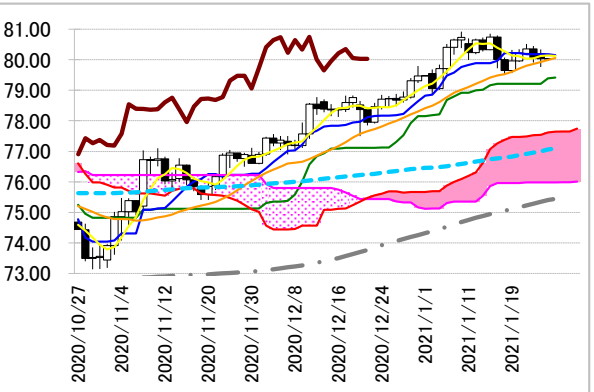


<ユーロ円＝雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。高値圏での孕み線で反落しているものの、転換線を上回って引けていることで反発の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	126.29(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	125.95
サポート1	125.65(日足一目均衡表・雲の上限)



<豪ドル円＝1/8 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。しかし、2手連続陰線で転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、1月8日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	80.93(1/8 高値)
前日終値	80.04
サポート1	79.39(日足一目均衡表・基準線)

